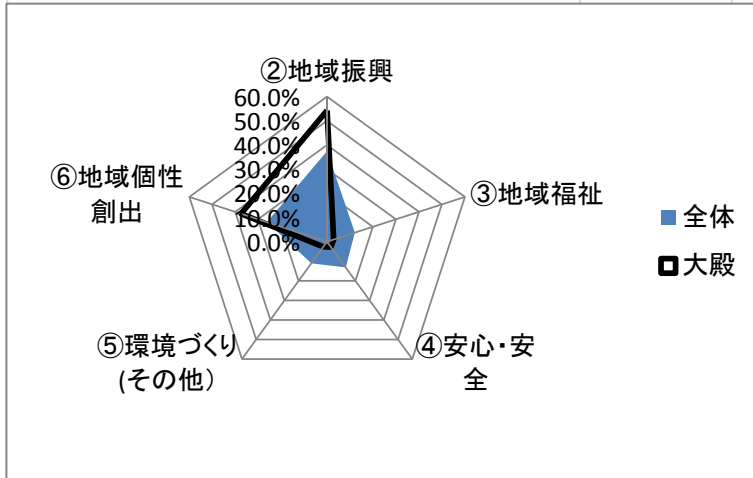


## おおどのコミュニティ協議会 地域づくり交付金事業概要(平成29年度)

■地域の情報			
地域人口	7402人	自治会数	29
世帯数	3323世帯	自治会加入率	90.25%

※数値は、平成30年4月1日のもの



### ■決算状況

交付金配分枠	7,925,000 円
交付金決算額	7,900,452 円
その他収入	447,953 円
交付金決算額／配分額	99.7%

### 各分野の決算

①協議会運営	4,987,712 円
②地域振興	1,825,641 円
③地域福祉	96,845 円
④安心・安全	91,045 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	88,760 円
⑥地域個性創出	1,258,402 円
決算総額	8,348,405 円

### ■地域づくりの活動方針(テーマ)

心豊かに暮らし続けることができるまちづくり 「住んでみたいまち 訪れたいまち 働くところのあるまち」

### ■総括

第3期地域づくり計画に沿った活動の最終年、連携団体の増加や新しい運営委員・部会員の参画があった。運営委員会で「協働のまちづくりとおおどのコミュニティ協議会」や「つながる大殿七たちょうちんの灯事業」についての研修を行い、運営委員会と3部会(あんぜん・やすらぎ・にぎわい)の役割を再確認しながら進めてきた。年間行事予定表や部会別事業スケジュール表の活用により、各事業は地域づくり計画に掲げた課題解決のための事業だという認識も深められてきた。みんなで話し合い、「実施、検証、次へつなげる」という会議運営ができています。

各事業や情報交換会などで会員同士の交流を図ることも引き続き力を入れていきたい。今後も地域課題は部会からのボトムアップという視点を大切にしていく。コミュニティ事業を知ってもらう、参加してもらう、参画してもらうという段階を踏んでつながっていけるよう、振り返りをしながら持続可能な運営を模索していく。また、第4期地域づくり計画書(案)にまとめた「大切にしたい大殿の魅力・良さ」を次世代につなげていけるような活動を目指していきたい。

### ■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費および事務費
② 地域振興	・地域情報の発信と広報活動 ・体育振興 ・地域コミュニティ推進(つながり、次世代育成) ・助成金交付
③ 地域福祉	・三世代交流 ・健康教室 ・おおどのたすけあいのまちづくり体制整備
④ 安心・安全	・大殿地区安心安全のつどい ・自主防災活動推進 ・地域見守り活動 ・反射鏡設置
⑤ 環境づくり	・環境整備
⑥ 地域個性創出	・伝統文化の保存継承

### ■重点的に取り組んだ事業

事業名	①地域コミュニティ推進事業 ②地域コミュニティ推進事業(つながり)	決算額	1,116,191円

①	目的	①各町内会をはじめとした各種団体との連携強化、情報交換につとめる。 ②新たな人材の巻き込みを図る。地域間交流を通じて他地区との連携強化を進める。		
	実施内容	①第4期地域づくり計画策定会議の開催。町内会を中心とした各団体との連携強化。活動拠点の充実。 ②研修(学校シリーズ・ものづくり講座)開催		
	実施時期	①通年②H29年4月～H30年1月		
	参加人数	①550人②140人		
	成果	①話し合い意識の醸成が図られ、組織運営が強化されてきた。各団体との連携強化や事業見直し・統合に向けた事務局会議を開催した。 ②庭木の学校では参加者のボランティア意識の把握ができたほか、ものづくり講座を託児つきで実施し、子育て世代の参加を促した。山の学校では仁保地区との連携や参加者同士の交流が図られた。		
	評価	①会議の開催回数の見直しや参画した実感のある運営に向けた工夫が必要になってきた。各団体がそれぞれの持ち分を活かし合う体制をさらに進めるコーディネート機能が必要。 ②研修・学校シリーズは、参加者にたいへん好評であった。開催方法を工夫することでさらなる地域住民の巻き込みが期待できる。		
今後に向けて	①地域活動の拠点としての「チーム大殿」構想、各団体や住民をつなぐコーディネート機能を模索する。 ②地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらい、参加してもらい、参画してもらい、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなどの工夫が必要。			
②	事業名	三世代交流事業	決算額	83,405円
	目的	三世代交流事業を通して、多世代の交流や関係団体との連携強化を図る。		
	実施内容	三世代交流ウォーキング及び大殿ベタンク大会の開催。 なかよしフェスタ竹細工コーナー及び七草がゆ教室の昔遊びへの活動支援。		
	実施時期	平成29年10月22日、12月3日、11月26日、平成30年1月7日。		
	参加人数	480人		
	成果	ウォーキングは雨天のため歴史講座に変更して実施した。大殿ベタンク大会は協力スタッフの参加も増え、参加者同士の交流が図られる運営ができた。なかよしフェスタや七草がゆ教室の昔遊びへ活動支援も参加したボランティアの皆さんが子どもたちとのふれあいを楽しんでくれた。		
	評価	参加者やボランティアスタッフが楽しく交流できる場になってきているが、関係団体間においては、事業目的について共通理解を進めていきたい。		
今後に向けて	交流機会の確保につなげるアイデア、事業統合など部会協議で共通理解を図っていきたい。			
③	事業名	伝統文化の保存継承事業	決算額	1,258,402円
	目的	地域の伝統文化(祭り)を通して地縁の強化を図る。		
	実施内容	地域内の祭りの実施及び活動支援。地域の文化資源の整備を実施した。 (ほたる観賞Week・「つながる大殿七たちょうちんの灯」事業・大殿ふるさとまつり)		
	実施時期	平成29年6月3日・8月6日・11月12日		
	参加人数	1,900人		
	成果	地域内のまつりは、町内会をはじめ、大殿中OTK(大殿地域に貢献し隊)や大勢のボランティアの皆さんの協力によって継続実施できている。 「ほたる観賞Week」は地域資源の保護と大殿らしいおもてなし(ほたる回廊)の視点で取り組んでいる。 「つながる大殿七たちょうちんの灯」事業では子ども歴史学習会を地域交流センターの社会教育事業と共同で実施したほか、新たに山車の新調や竹の保管場所提供など地域の企業からのご協力も頂いて準備が進められた。また、コラボ企画として「山大生の縁結び企画」なども用意していたが、荒天のため8月6日当日のイベント・事業は中止した。 「大殿ふるさとまつり」は、地域のにぎわいを創出できた。(実行委員会の総括)		
	評価	「ほたる観賞Week」、「つながる大殿七たちょうちんの灯」事業では、地域のつながり・地域の誇り・地域への愛着が感じられる事業になった。また、「ふるさとまつり」はスローガン「人と人が出会い、つながる。みんなで作る大殿のにぎわい」を達成できた。		
今後に向けて	引き続き、「持続可能な」運営を工夫していきたい。ちょうちん事業では、平日のボランティア運営や、町内会への安全管理面の丁寧な説明などアンケート結果をふまえた運営を行っていく。部会事業の統合整理、地域のお宝情報の共有や地域資源の保全に関するルールの協議を図っていきたい。 大殿ふるさとまつりは、地域のにぎわいの場として今後も実行委員会の活動支援を行っていく。			